

### 「靈的戦いの基礎 3 愛の召集～戦いの武器は何か」

ルカ 2 : 8 ~ 20、イザヤ 65 : 17 ~ 25

遠藤 一則 牧師

先日、ある姉妹からお借りした DVD の中に 95 歳の牧師さんがお話している映像が入っていました。その映像は驚嘆に値します。その話の内容も滑舌もその年齢とは思えぬ立派なものだったからです。彼以外にも次々に出てくる祈りの証言者たちが皆さん、90 歳前後とは思えぬほど驚異的に若いのです。今日はこの教会の中で年長者の方々を覚えるときを持ちましたが、まだまだひよっこ、十分若いといえるのではないのでしょうか。私自身も無理のない範囲で体を動かし、若さを保つ、というよりは聖書を読み、悟り、分かち合う、その体力をつけていこうと願っています。そして、体が衰え、目がぼやけ、耳が遠くなったとしても内なる霊は常に活動し、躍動し、心を元気付け、知性や感性を衰えさせることは決してない、と信じています。なぜなら、主なる聖霊が心のうちに生きておられ、私たちが地上にある間、ともに歩いて下さるからです。

ここ数週間、靈的戦いについて考えてきました。私たちが好むと好まざるとにかかわらず、イエスを信じたときから、すでにわたしたちはこの世との戦いの中に入っています。もちろん、主は戦いなしにわれわれを天にひきあげることもできるでしょう。しかし、この戦いを通して、副産物つまりわたしたちが何かの形で愛のうちに成長することができるからこそその戦いのうちにおかれているのです。戦いには目的があります。平和を作るという目的です。戦いのために戦うのではありません。それは非常に悪魔的です。悪魔は悪が悪であるから、悪をするのです。その先に何の目的も持ちません。私たちに平和はすでにありますが、肉体を持ってこの地上にある間、つねに生活上の葛藤に出会います。局地戦争といってもいいでしょう。

イザヤ 65 章は千年王国の情景、ある意味天国の雰囲気想像させてくれる箇所です。私たちはこのようなところに今だに入ってはいません。しかし、日々聖書のうちにそれを感じることはできます。しかもわたしたちはすでに主イエスによって、その平和のうちに入れられてあるのです。決して新しい幸せを求める必要はありません。「革命とは保守的である」ということばがあります。これは歴史上成功をなした革命というものもともと持っていた人々の古くからの価値観、そのよいものを思い出し、現状が違うからそこに戻ろうという運動であり、決して何から何まで新しいものでできているわけではない、という原則です。この平和のうちにとどまること、これこそ私たちの戦いではないのでしょうか。

さて戦いのために、言いかえれば「平和のうちにとどまるように」、と私たちは召集されました。召集されたからには、主がすべてを備えてくださっているはずです。誰も兵士にな

るために自分の武器を持参する者はありません。剣にしろ、銃にしろすべては支給されません。私たちのもともと持っている武器のようなもの、能力のようなものは一切関係ないのです。主が私たちを召集し、主が武器を備えてくださるのです。その武器とは何でしょうか。

エペソには霊的な武具が出てきます。救いのかぶと、正義の胸当て、真理の帯、平和の福音のくつ、信仰の大盾、みことばの剣などです。主は救われた私たちにこれらを着せてくださいました。そして、いつでも平和のために戦えるようにしてくださいました。しかし、これらの霊的武具にもまして、主はもっとすばらしい武器をくださっているのではないのでしょうか。それは喜びです。私たちの敵、悪魔はいつも隙をねらってきます。そして私たちが彼らを恐れ、しりごむようにといろいろな問題を投げかけてくるのです。もちろん、罪の世界にあって、悩みは尽きないでしょう。しかし、主はそんなときでも決して私たちを見捨てず、愛しているのです。これをどうして喜ばずにいられるのでしょうか。

私はこのメッセージをしながら、キリストの生まれた夜のことを思い出します。その夜、御使いたちが言いました。「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」わたしたちはだれも御心にかなうような人間ではありません。唯一主イエスのみが父なる神の御心にかなったのです。そして、その主イエスの十字架の死と復活を信じたときに、わたしたちは主に結び合わされました。ともに「御心にかなう人」とされたのです。なんという喜び、恵みでしょうか。さらにイザヤ65章1節にあるように、わたしたちは主を求めもしていなかったのに主が見つけれられてくださったのです、私たちに。さすがの悪魔もこんな喜びをどうやってとりのぞけるでしょうか、無理です。

このように私たちは喜ぶべきこと、祝うべきことが今も、そしていつも、限りなくあるのです。主はこう言っておられるようです。「私はあなたに見つけられてとてもうれしい。一緒にお祝いしたい。ともに喜んでください。」主を喜ぶことはわたしたちの力です。そして、主が喜んでおられることはもっと私たちの力です。